

令和7年度 学生FD CHAmiT 学部で対応可能な意見に対する報告書

学生意見の集約

実施日	実施内容
令和7年6月23日	【具体的な実施方法】 対面

学部で対応可能な意見

※学生FD CHAmiT当日、以下の内容を基に、参加学生からご説明いただきます。

学生からの意見（学部・学科の問題点）	対応済	対応中	問題解決のプロセス
<p>1 【意見】 歯学部は少人数の学年進級制で、入学から卒業まで同じ仲間と長い時間を共にする点が特徴である。しかし、6年間という長い学びの中で、努力やモチベーションを維持し続けるのは決して容易ではない。そのため、同じ学年だけでなく、先輩や後輩、教職員とも気軽に相談や交流ができる場や、悩みを共有できる仲間など、学年や立場を超えて支え合える環境づくりが必要だと考える。</p> <p>【理由・経緯】 現在の5年生・4年生は、コロナ禍のため入学直後から友人と直接交流できず、学業への不安や孤独を感じる学生が少なくなかった。</p>			<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同士の絆が強まる。 ・部活動に参加していない学生にも交流の場が生まれる。 ・互いに学び合うことで、自分の学修の到達度や理解が不十分な部分を把握できる。 ・ストレスが軽減され、精神的な安定が得られる。 ・協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力、責任感など、歯科医師に求められる資質が養われる。 ・国家試験の合格率向上が期待できる。 <p>○ 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 令和7年度からは学生主導の学修支援組織「学修向上委員会」が発足した。第1～5学年の学生が中心となり、学年間を越えた勉強会や学修相談会を自主的に企画・運営し、学年代表や教員、事務職員と連携して定例会で情報共有や学修環境の整備を進めている。この取り組みは、学修意欲の向上や進級・国家試験に対する不安の軽減、学内コミュニケーションの活性化を目的としており、学年や立場を超えて支え合える環境づくりと支援体制の充実を目指している。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 学修向上委員会は発足したばかりで規模も小さく、委員の呼びかけに応じない学生も一部にいるため、今後は全員が参加できるように取り組みが課題となっている。</p>
<p>2 【意見】 歯学部の授業について、基礎系科目は臨床現場を意識した内容に、臨床系科目は現場に即した授業を増やしてほしい。そうすることで、より深く理解でき、学びやすくなると思う。また、授業ごとの質にばらつきがあるため、内容や進め方の統一を図り、安定した質の高い授業を提供してほしい。</p> <p>【理由・経緯】 実体験や現場のエピソードを取り入れた授業は興味深く、臨床にも役立つと感じる。一方で、一部の課題探求型授業では教員から明確な答えの提示がなく戸惑うことがあり、また、動画を流すだけで図や補足説明のない授業は内容が理解しづらい。</p>			<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の勉強意欲が高まる。 ・授業の質が向上する。 ・基礎と臨床のつながりが明確になり、より深く理解できる。 ・臨床現場で役立つ知識やスキルが身につく ・学生の満足度や学修成果が向上する <p>○ 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 ・授業評価アンケートに率直に回答し、学生の意見を授業改善に反映させる。 ・基礎と臨床の連携を意識したカリキュラムの強化・充実を継続する。 ・効果的な授業方法・工夫を教員同士で共有する仕組みを強化し、教員の授業力向上を図る。 ・教員と学生の意見交換の場を活用し、双方向のコミュニケーションを深める。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 特になし。</p>
<p>3 【意見】 歯学部の強みとされる「教育DX」について、学生の立場では十分に活用されていないと感じる。たとえば、授業録画の音声が入っていないかったり、講義資料の共有方法にばらつきがあるほか、BOXの使い方も学生や教員に十分伝わっていない。今後は、こうした仕組みを現場でより効果的に活用できるよう改善してほしい。</p> <p>【理由・経緯】 歯学部では授業のオンデマンド配信が整備されており、後から見返せる点は大きな利点だが、音声録音されていないなど不具合も多く、十分に活用できない場面がある。また、講義資料の共有方法が統一されておらず、学生が混乱することも少なくない。さらに、BOXの使い方は学生だけでなく教員にも十分に周知されておらず、より分かりやすいサポートが必要だと感じる。</p>			<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報や教材にすぐアクセスできる。 ・効率的に勉強に取り組める。 ・学修内容の理解が深まる。 ・学生の自主的な学修が促進される。 <p>○ 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 ・教員向けに授業録画や資料共有のマニュアルを作成し、周知する。 ・授業録画時は音声の確認を徹底する。 ・教材や資料の共有方法を統一し、混乱を防ぐ。 ・BOXの使い方に関するFAQを整備し、質問があれば問い合わせ先を設けて対応する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 特になし。</p>